普及センター もりおか 7月

インターネットでオールカラーの記事が読めるよ！

いわてアグリベンチャーネット 普及センターもりおか　検索

第１５７号平成２７年６月２５日発行
盛岡農業改良普及センター
盛岡市内丸１１－１　盛岡地区合同庁舎
TEL 019-629-6726　FAX 019-629-6739

【熱中症予防チェック】農作業時の熱中症に注意しましょう！

天気予報と体調をチェック

□急に暑くなる日は要注意です。

□体調不良時は、無理をしないようにしましょう

涼しい服装 安全な作業環境

□日差しを遮り、汗を逃がしやすい服装で。

□作業はできる限り二人以上で。建屋の中でも風通し良く。

こまめな水分補給 こまめな休憩

□のどが渇く前に、こまめに水を飲みましょう。

□こまめに涼しい場所で休憩しましょう。

高齢者は要注意！

高齢者は若者に比べると、暑さやのどの渇きも感じにくくなっています。
周囲の人も積極的に声をかけましょう。

各種イベント情報

名　　称　「JA いわて中央　女性農業者等オペレーター育成研修会」

開催日時　平成 27 年 7 月 29 日（水）　9：30～15：30

開催場所　盛岡市太田地区活動センターとその周辺圃場

対　象：JA いわて中央管内の**女性農業者**、新規就農者、定年帰農者などで、農業機械操作に慣れていない方（30 名程度）

内　容：農作業安全に関する講義、農業機械操作（草刈機、歩行型管理機、トラクター）の実習

申込締切：7 月 24 日(金)　問合せ先：盛岡農業改良普及センター小田中（電話 629-6733）

普　及　現　地　情　報

４月から６月までの盛岡普及センターの普及現地情報を紹介します。

組織名称変更！親しみやすい組織を目指して

～第 28 回盛岡地方農業青年組織連絡協議会総会を開催～

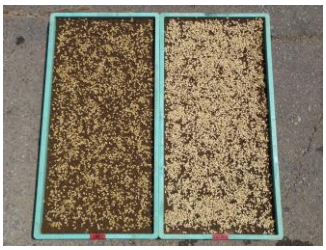
４月７日、盛岡・八幡平地域の農業青年クラブ８組織で構成される盛岡地方農業青年組織連絡協議会の総会が開催されました。本総会の目玉（!?）は何と言っても「組織名称の変更」。新名称の一般公募を行い、「盛岡広域ヤングファーマーズ・CREEIGHT(ｸﾘｴｲﾄ)」が誕生しました。「CREEIGHT」とは英語の「CREATE（創造）」と「EIGTH（8）」を合わせた造語で、８つの組織が力を合わせ、若い目線でこれからの農業を創造し、展開したいという前向きな意味が含まれています。今後の活動展開が期待されます！

スムーズに進行された総会

飼料用米の密播疎植試験をはじめました

JAいわて中央管内では、今年から400haほどの飼料用米の栽培が始まりました。飼料用米は低コスト栽培が基本となるため、１０a当たりに必要な箱数を抑える疎植栽培に加えて、欠株を少なくするための“密播”育苗にもチャレンジしようと考えています。そこで、今回は普及センターとJAが協力して、次の試験を実施しています。
①密播苗の特徴把握　②播種機の播種量の限界　③密播苗の移植と生育経過

５月19日には乾籾200ｇで播種した苗を使用し移植を行いました。生産者からは、「対照区(乾籾100ｇ)では欠株が気になって後ろを気にしながら田植えを行ったが、密播区はその心配がなくて楽だった。」との感想をいただきました。ただし、田植機の爪を調整したにも関わらず、１株の植え付け本数が多かったことから、最適な播種量はもう少し少なめが良いと思われます。



左:乾籾１００ｇ播種
右:乾籾２００ｇ播種

我が家の「豊かな農村生活」に生かそう！

紫波郡生活研究グループ連絡協議会は６月18日、視察研修会を実施しました。「りんご工房きただ」では、北田富士子さんから、米とりんごの販路開拓や蔵を活用したグリーンツーリズム、家族経営協定締結などについて幅広いお話を伺いました。また「松本りんご園 mi cafe」では、松本直子さんから、カフェ運営を実現させた経緯や、りんご畑を会場にしたチャリティーコンサート「りんご畑 de コンサート」の取組についてお話を伺いました。グループ員は両経営体のすばらしい取り組みに圧倒され、夢を持って取り組む姿に大いに刺激を受けた様子でした。

蔵を活用した簡易旅館 FROG BEE は、蔵の趣が生かされた居室で落ち着きます。

平成２６年度岩手県麦作共励会「最優秀賞」受賞　～紫波町　平沢北生産組合～

平成２６年度岩手県麦作共励会の表彰式が６月１６日岩手県産麦現地検討会と一緒に行われ、紫波町の平沢北生産組合が「最優秀賞」を受賞しました。

平沢北生産組合は、作付品種は「ゆきちから」で、平成２６年産の単収は357kg/10aと県平均165kg/10aを大きく上回り、品質についても１等Ａランクを獲得しました。現地検討会の中では、今年のほ場を見せていただきましたが、技術力の高さが際立つ徹底した管理で、連作８年目とは思えない見事な小麦、藤原組合長は、基本技術を励行しながら、自分達に適した栽培体系について試験圃場を設けて改善していくこと、組合員みんなの意識を高めていくことに特に力を注いでいる、とお話しされました。

平沢北営農組合での
現地研修の様子